

はじめに

コンピュータが世に誕生したのは1946年である。その後コンピュータは多くの人々の熱い期待と努力により性能が向上し、今日では社会のすみずみまで普及して我々の生活を支えている。1972年にはマイクロプロセッサが誕生し、加速度的に普及してきた。今やコンピュータは我々が普段使っているスマートフォン、家庭用電気製品、自動販売機、自動車など至るところに組み込まれている。コンピュータ間の通信網である情報ネットワークも大いに発展した。国境を越えて世界に広がるインターネットにより、誰でも容易に世界中の情報を即時に得ることができる。高度に情報化した現代社会に生きる我々にとって、コンピュータに関する基礎的な素養（コンピュタリテラシー）を身につけることは必要不可欠となってきた。

本書の目的は、はじめてコンピュータを学ぼうとする人たちに向けて、学生であっても社会人になっても必須である、情報処理の基礎的な知識を解説するとともに、パソコンの基本的な扱い方やソフトウェアの利用法をできる限り広範囲にかつ平易に解説することにある。本書は理工系学部・学科の初年度の大学生を対象とする情報処理の入門的授業の教科書として使用することを前提に記述されているが、独学で利用する場合であっても、インターネットの情報検索で用語を調べるなどすれば、十分読みこなせるであろうと期待している。

本書は第1章“コンピュータ入門”の中で、コンピュータの歴史、情報の表現、コンピュータのハードウェア、コンピュータのソフトウェア、コンピュータとネットワークについて解説するとともに、第2章でWindowsとウェブブラウザの操作方法、第3章でインターネット情報の検索と利用について解説する。後続の章では演習項目として、電子メール、ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーション、ウェブページの制作、文書処理システム \LaTeX を取り上げている。これらは今日の理工系学生ならばマスターしておきたいコンピュタリテラシーと言えよう。本書はWindows系の標準的なパソコンを用いて演習内容を実際に読者が体験して学習することを想定している。その具体的なコンピュータ利用の過程で多くの生きた知識を獲得するとともに、情報処理の重要性と可能性を体験することになる。その経験はコンピュータを自分の専門分野の中で活用するときにも必ず役立つことになるものと期待している。

本書は工学院大学で1991年に開始された全学的情報基礎教育科目「情報処理概論及演習」の1学期（15週）分の教材として、大学の情報基礎教育運営委員会のメンバーによって議論と実践を繰り返しながら開発されてきたものである。授業で使用する計算機システムの更新の度に、当委員会は新しい教材を開発するワーキンググループを構成して抜本的改訂作業を重ねてきた。今回は基本ソ

ソフトウェアとして Windows7 を搭載した Microsoft Office 2013 を含む新しい共同利用教育研究システムの稼働開始に合わせて改訂を行った。

本書の開発の経緯から、これまで多くの先生方にご協力をいただいた。この場を借りて厚く御礼申し上げたい。今回も共立出版の協力により、前著「理工系学生のためのコンピュータリテラシー」を改訂する機会を得て、新しい装丁で Microsoft Office 2013 対応版を出版することとなった。本書の出版にあたり、共立出版株式会社の寿日出男氏および同編集制作部の吉村修司氏には大変お世話になった。

2014 年 3 月吉日

工学院大学情報基礎教育運営委員会

執筆担当者 加藤 潔

田中 久弥

飛松 敬二郎

山崎 浩之